

生徒たちとのかけがえのない日々

「全国大会に行きたい！」全てはこの一言から始まった。3年生が引退し、新体制がスタートするに当たり、部員全員で目標を決めることにした。その時、部長が言った目標が「全国大会出場」だった。あまりにも大きな目標に驚いたが、秋田県の合唱を何とかして盛り上げたいという思いで教師を目指し、採用になって念願の合唱部の顧問になった私にとっても全国大会出場は目標であった。30名ほどの部員全員と私の気持ちは一致し、この日から全国大会に向けた闘いが始まった。

まだ部活動の制限がない頃で、平日はもちろん、休みの日は一日中練習に励んだ。とにかく向上心がある生徒たちで、練習後も自主練習がしたいと残って、パート毎や学年毎に合わせていた。他の仕事でなかなか指導にいけないと、「先生にもっと教えてほしい！」と熱い気持ちをぶつけられることもあった。生徒たちの頑張りにこたえられるよう、自分も頑張らなければという思いが強くなった。

県大会を無事に突破し、勝負の東北大会。本番前の練習で生徒たちの調子が悪く、自分も焦ってしまい全体の雰囲気悪くしてしまった。このままではいけないと、会場に向かう前に海に寄り、気分転換をしつつ、3年生を集め話をした。

「みんなならできる！」

採用3年目。2年生の時から共に歩んできた3年生の生徒たち。「この子たちならきっとできる、大丈夫」と自分にも言い聞かせた。

東北大会本番。生徒たちは力を出し切った。結果は金賞。そして、目標としていた全国大会への出場を決めた。この時の生徒の喜ぶ姿は今でも鮮明に覚えている。

東北大会から1カ月。全国大会の日。本番前の練習で、曲のイメージや注意点を一気に伝え、演奏に入った。生徒たちは驚くほどの集中力で、私が言ったことを全て演奏で表現した。言葉ではなく、音楽で生徒たちと会話をしている感覚に、心が通じていることを感じた。本番も、これまでの練習の成果を発揮することができた。生徒たちのやりきったという表情、楽しかったという声が嬉しかった。

目標を決めた当初、全国大会出場は達成することはとても難しいと感じていた。しかし生徒たちは達成すべく地道に努力を重ね、見事に達成した。努力することの大切さ、頑張れば夢は叶うことを生徒たちから教えてもらった。

全国大会に出場できたことは本当に嬉しかったが、さらに嬉しいことがあった。それは全国大会が終わり、帰りのバスで3年生中心に生徒たちがこれまで歌ってきた歌をずっと合唱していたことだ。約1時間、疲れているにも関わらず、絶えずみんなで合唱をしていた。その姿と聴こえてくる歌声に涙が止まらなかった。これまでの人生でこんな気持ちになったことはない。感動で心が震えるとはこういうことなのだろう。生徒たちが歌うことをこんなにも好きになってくれたことが何よりも嬉しかったし、生徒たちの素晴らしい歌声にこれまでの共に歩んできた日々の重さを感じた。生徒たちの合唱につつまれながら、教師になってよかったと幸せを実感した。

教師になってもちろん大変なことはあるが生徒と心通わせ、共に成長できる喜びはなかなか経験できない貴重な体験である。人は簡単に成長するわけではなく、長い時間を

かけて徐々に成長していくものである。教師とは、すぐに成果は見えないが、地道な努力が大きな感動として自分に返ってくる仕事であると思う。それが教師という仕事の魅力であり、やりがいや生きがいにもつながるのではないだろうか。これからも生徒と共に成長できる教師でありたいと思う。